

5月30日はゴミゼロの日 海岸に巨大新聞を制作『海の声新聞』

最近社会問題となっている海洋プラスチックゴミの問題だが、新聞の記事だけでなく広告からも情報発信ができないかを考えていた。多くの企業や団体がこの問題について様々な取り組みをはじめており潜在的なニーズがある上、読者と一緒に考える媒体として新聞が適していることは間違いなく、あとはどう表現するかが問題。海洋のゴミ問題ということで、海岸を活用した紙面展開を検討した結果、環境問題を提起した巨大な「東京新聞」を海岸に描き、それをドローンで撮影したものを紙面掲載することにした。大きな「紙面」を収容できる海岸として、千葉県旭市の飯岡海岸で制作を開始。地元旭市で砂の彫刻展を開催している団体や学生などの協力を得て、11日間をかけて完成させた。

海からの声なき声を代弁した「海の声新聞」は、海に捨てられたプラスチックゴミを飲み込んだり体に絡ませたりすることで多くの生物の命が奪われている現状と、この問題に向き合っていく必要性をウミガメのイラストや海洋ゴミの分解に必要な年数のグラフをつけて、新聞の1面風の「紙面」を砂に描いたもの。また、東京新聞WEBに特設サイトを設置しメイキングの動画をPC、スマートフォンでも見られるようにした。

制作に携わった皆様および趣旨にご賛同いただきました広告主の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

今後も様々なアイデアで新聞広告の可能性を引き出したい。（東京本社広告一部

春田 靖浩）

3ページ特集

前日に記事掲載
2019年5月29日
東京新聞朝刊

ごみゼロ(530)の日
2019年5月30日東京新聞朝刊



【協賛企業】
イケア・ジャパン、カネカ、日本財団、
ボルボ・カー・ジャパン、日本マクドナルド

特設サイトからメイキング動画も
ご覧になれます

<https://seavoice-newspaper.jp/ja/>

【読者の声】

- ・とても好感が持てます。子供の頃と比較しても今、地球が苦しんでいるのがわかる。(男性30代)
- ・日本の企業や団体が、この問題に真剣に取り組んでいることを知るのは大変心強いです。(女性30代)
- ・プラゴミが大量に出されている事に危機感を持ちます。企業だけでなく、個人個人が、きちんと「ごみゼロ」を目標にしなければと思います。(女性60代)